塩尻市片丘エリアAI活用型オンデマンドバス実証運行事業（長野県塩尻市）

応募様式A

のるーと塩尻・片丘エリア実証共創プラットフォーム

事業の基礎情報

実施主体	長野県塩尻市
事業実施地域	長野県塩尻市
共創の類型	官民共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	まちづくり
共創パートナー	一般財団法人 塩尻市振興公社、アルピコタクシー株式会社、ネクスト・モビリティ株式会社
運行形態	AIデマンド交通
運行主体	アルピコタクシー株式会社

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

本市は民間路線バスの撤退後、市が主体となって1999年から地域振興バスを運行してきたが、利用者ニーズの多様化を背景に平成20年度をピークに約7万人の利用減を抱え、持続性確保の観点では運転士の高齢化、担い手不足等の課題がある。左記課題解決に向けて、大型自動車第二種免許が必要な既設バスから普通自動車第二種免許で運転可なバスにダウンサイジングし、定時定路線型ではなくオンデマンド型の仕組みを導入し、AIを活用して効率性を高めた交通サービスの構築に取り組む。

（事業の概要）

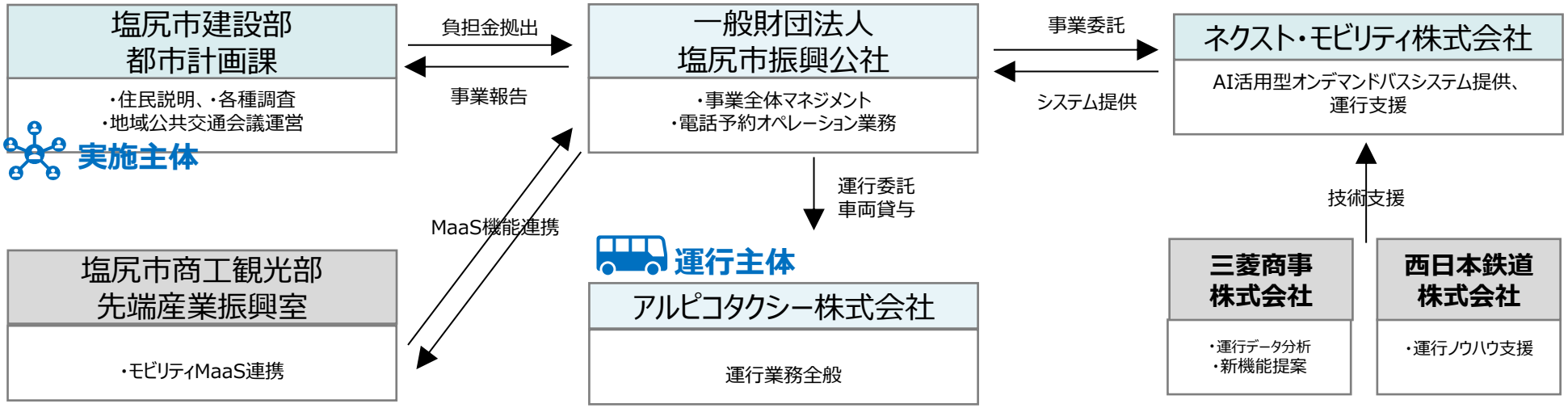
市、公社、運行事業者、AIオンデマンドバス交通システム事業者で連携・協働し、下半期（半年間）のAI活用型オンデマンドバスを導入し、実証運行を実施。具体的には塩尻市の片丘地区において地域振興バス「片丘線」とAI活用型オンデマンドバスのサービス比較及び検証を行う。

塩尻市片丘エリアAI活用型オンデマンドバス実証運行事業（長野県塩尻市）

応募様式A

のるーと塩尻・片丘エリア実証共創プラットフォーム

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

（地域の関係者との連携・協働）

電話予約や全体マネジメントを塩尻市振興公社、住民説明、各種承認事項の整理及び事業実施の前提となる地域公共交通会議に係る事項を市が担い、かねてより地域振興バスの運行を担うアルピコタクシー株式会社が運行業務を担当し、AIオンデマンドバスに係る交通システムについてはネクスト・モビリティ株式会社が提供し、各主体と協力して地域における持続可能な交通システムの構築を図る。

（実証事業により見込まれる効果）

●農村エリアに位置し、地域内に買い物施設を有さないため、市内他地域との移動手段を確保することで外出機会の創出を図る。また、現状2時間に1本程度の運行である地域振興バスから「乗りたい時間に予約をする」AI活用型オンデマンドバスへ切り替えることで買い物のみならず生産年齢層、高齢者の通院、塩尻駅乗継、帰宅の移動にあたるサービスレベルの向上を図ります。具体的には現状便あたり3.46人、日当たり17.28人（令和4年度実績）からAI活用型オンデマンドバスでは日当たり30人に増加を見込みます。

塩尻市片丘エリアAI活用型オンデマンドバス実証運行事業（長野県塩尻市）

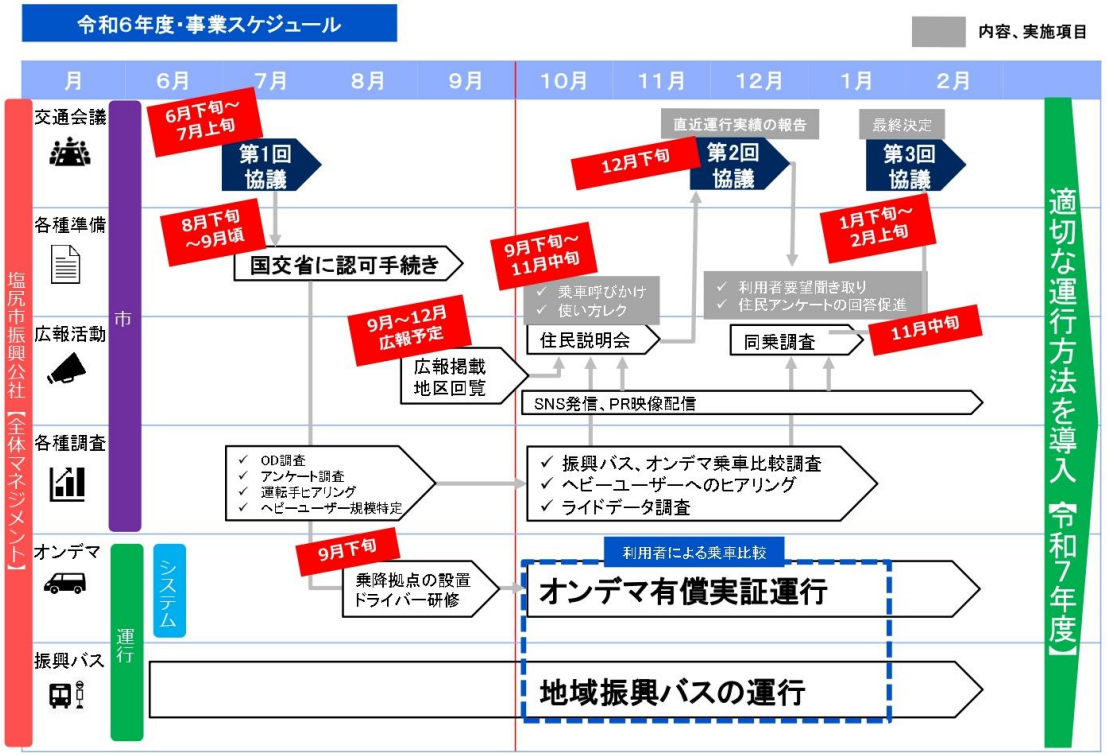
応募様式A

のるーと塩尻・片丘エリア実証共創プラットフォーム

取組の詳細

（事業実施手順・スケジュール）

令和6年度に①塩尻市が実証に係る地域公共交通会議における協議（6月下旬～7月上旬に計画承認、12月下旬に中間報告、翌1月下旬～2月上旬に次年度交通モードを決定）、許認可等の手続き（8月下旬～9月頃）、実証開始前9月～12月の期間で住民説明等の広報活動や各種調査を実施。②9月下旬からAI活用型オンデマンドバスに係るシステム導入やドライバー研修をネクスト・モビリティ株式会社が担い、③10月からAI活用型オンデマンドバスの運行に係る業務をアルピコタクシー株式会社が担当。
①～③までの事業に係る全体マネジメント及び10月からの電話オペレーション業務を塩尻市振興公社が管理する。



実証運行エリア	令和6年度	令和7年度
塩尻市片丘エリア（地域振興バス「片丘線」代替検証）	実証運行	住民選択の結果適切なモードで運行

（補助事業実施後の予定）

市内を運行する地域振興バスの代替機能として検証を行い、令和6年度はAI活用型オンデマンドバスと併走をするため、左記に係る資金について本補助を活用。令和7年度以降は実証期間中の住民選択結果に基づき、運行方法をいずれかに決定することで事業経費の整合を図る。